

カゴソウ (夏枯草)



語源

ウツボグサ属 *Prunella* の由来には諸説ある。一説には、ドイツ語の Bräune ブラウネ(ブラオネ)「扁桃腺炎」に由来するという(かつて、ウツボグサは扁桃腺炎の治療に用いられた)。別説では、ウツボグサの枯れた花穂を、ドイツ語 Braun ブラウン(ブラオン)「茶色」で表したのが起源だという。ドイツ語由来説を支持する点として、ドイツ語その他のヨーロッパ言語では、ウツボグサを Brunella と綴っていたことが挙げられる(少数ではあるが、Prunella という綴りも古くから存在していた)。種小名 *vulgaris* は、ラテン語で「一般の」の意。

和名のウツボグサのウツボとは、武士の用いた肩や腰から下げる太い矢筒「鞆(うつぼ)」のこと。乾燥した花穂(かすい)が鞆の穂(矢羽を保護する毛皮)に似るため。生薬名の夏枯草とは、真夏に花穂が急に茶色になり、枯れたようになるため。

基原

Prunella vulgaris Linne var. *lilacina* Nakai
ウツボグサ

シソ科 多年生草本

薬用部分

花穂

産地

中国(江蘇、安徽、浙江、河南など)、韓国、日本(長野、四国)

北半球の温帯の日当たりのよい草地に普通にみられる。長野県、四国で野生品を採集するが、多くは中国産のものを輸入する。現在、ほとんど中国産品である。



主な成分

トリテルペノイド：ウルソール酸およびその配糖体プルネリン、オレアノール酸
フラボノイド：ルチン、ヒペロシドなど

主な薬効

利尿、消炎

代表的処方

主に民間療法で煎液を膀胱炎、淋病、腎臓結石などに用いる。漢方処方に配合することは少ない。

【夏枯草散】

カゴソウサン
夜に悪くなる眼球の痛み用いる。
(処方内容) 夏枯草/当帰/白芍/炙甘草/玄参

【夏枯草膏】

カゴソウコウ
瘰癧(るいれき、頸部リンパ節の結核性炎症)で既に破れ潰れたもの、又は破潰しないもの、瘻孔(ろうこう、組織に炎症などによって生じた管状の穴)になっているもので、痩せ、食欲不振、瘻(おこり、一定の周期で発熱し、悪寒や震えの起こる病気)のような寒熱で肺病になるものを治す
(処方内容) 夏枯草/甘草/陳皮/川芎/桔梗/昆布/香附子/当帰/白芍/玄参/浙貝母/白僵蚕/烏薬/紅花/蜂蜜

【収涙飲】

シュウルイイン
流涙が止まらないものに用いる。
(処方内容) 荊芥/防風/独活/黄連/黄芩/山梔子/川芎/木賊/菊花/薄荷/夏枯草/地黄

【止涙補肝湯】

シルイホカントウ
老人で涙の多いもの、涙のう炎に用いる。
(処方内容) 当帰/芍薬/川芎/熟地黄/防風/木賊/蒺藜子/夏枯草

※参考文献：「生薬単」「日本薬局方」「中薬大辞典」「牧野和漢薬草大図鑑」「和漢薬の事典」「日本薬草全書」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力
福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11
TEL: 06-6364-5861 FAX: 06-6364-6562
URL: www.fukudaryu.co.jp